

日本生産性本部は5月22日、第97期「人事部長クラブ」の5月例会を東京・飯田橋の「日建設計東京本社ビル」(PYNNT(ピント))で開催した。当日は「人的資本経営を後押しする『行きたくなるオフィス』」をテーマに、日建設計の中村公洋氏(11写真右)と、シービーアールイーの松永浩一氏(11同左)の2人が講演した。

冒頭、中村氏は、松永氏とともに所属するピープルアナリティクス&HRテクノロジージャ協会のワークプレイスインベーション研究会の活動の概要を紹介し、「IoTの技術発展とともに、オフィス設計はデータに基づく設計に変化していく可能性が高い。IoTの技術を活用し、データに基づいた定量的な評価を積み重ねることで、オフィス空間は、顧客の企業価値の向上に貢献できるようになる」と述べた。次いで、松永氏は、同研究

良好なコミュニケーションで自己成長促進

# 「行きたくなるオフィス」

従業員のエンゲージメント向上で人的資本経営が加速

会の活動内容に触れながら、「人的資本経営のフレームワークを踏まえてオフィス整備の意味を整理し、『行きたくなるオフィス』にすることで、良好なコミュニケーションを通じてワーカーと組織の



成長を促進し、従業員のエンゲージメントを向上させ、人的資本経営を加速する効果が期待できる」と指摘したうえで、従業員のエンゲージメント向上を醸成する「行きたくなるオフィス」のキーワード

## 人事部長クラブ5月例会 専門家2氏が講演

は「エンパワード」であり、従業員が計画過程に参画し、自分たちの思いをワークスペースに込めることで、従業員の帰属意識や自律性を高め、結果的に生産性向上を実現できると強調した。

「行きたくなるオフィス」の整備計画に際しては、多様な階層、機能における課題や問題をインタビューやアンケートなどによって洗い出し、優先順位を付けて施設計画に落とし込むことや、屋内緑化や絵画アートなどを積極的に導入すること、従業員のコミュニケーションセンターや位置情報、対面情報などを計測し、オフィスレイアウトや運用管理などに生かすピープルアナリティクスを導入することなどが効果的だと述べた。

その後、参加者は、「社会にひらき人が集う、共創の場」をテーマに2023年4月にオープンした「PYN」の施設を見学した。